

オープンキャンパス報告

2014年7月30日から31日にかけて開催された東北大学オープンキャンパスで、東日本大震災学生ボランティア支援室の活動について紹介しました。川内北キャンパスA101教室では10:00～15:00まで学生ボランティア活動をパネル展示で紹介し、またA102教室では13:40～14:20で、実際に活動を行っている大学生が、高校生向けにボランティア活動の魅力についてお話ししました。130名程の高校生が訪問し被災地の現状と東北大学生の活動について学んでくれました。特に栃木高校からは42名の高校生が訪問し、栃木高校卒業生の東北大学生が、自分のボランティアの活動について後輩に紹介しました。



また31日15:00からは、国際交流基金が実施する"KAKEHASHI Project"の一環として、アリゾナ州立大学の大学生23名が会場を訪問し、東北大学生ボランティアとの交流を実施し、東北大学生が英語で被災地の状況やボランティア活動について紹介しました。

ハーバード大学生と共に行く福島スタディツアー実施



東日本大震災学生ボランティア支援室と経済学研究科国際交流支援室は「ハーバード生と共に行く福島スタディツアー」を共催・実施しました。

8月2日～3日の日程で、本学の学生11名と教員4名およびハーバード大学生6名が参加しました。福島県の飯館村、川内村、いわき市などを訪問し、現地の方から直接被災当時の状況や避難後の生活上の課題などについてお話を伺いました。

訪問先での質疑応答は勿論、宿泊先での議論や交流のすべてを日本語と英語のバイリンガルで行い、本学の学生にとっては被災地の現状を学習するのみならず、英語力・国際感覚を養う良い機会ともなりました。

東北大学大学祭に「震災復興カフェ」出店

東日本大震災学生ボランティア支援室は、大学祭で11月1日と2日「震災復興カフェ」を出店しました。ボランティア活動の紹介のほか、岩手県の郷土料理「なべやき」を販売し、また岩手県・宮城県・福島県の仮設住宅入居者による手作りの品を販売しました。2日間で約200名の方にきていただきました。展示されていた写真を見て、復興の進まない被災地の現状について、学生にいろいろと尋ねられる方もおられました。



公式サイトへはこちらからアクセス！→
<https://sites.google.com/site/voltohokuuniv/>



発行日 平成27年(2015年)3月31日

発行者 東北大学教育・学生支援部学生支援課
〒980-8576 仙台市青葉区川内41 TEL 022 (795) 7818

©2015 Tohoku University Printed in Japan

東北大学高度教養教育・学生支援機構
課外・ボランティア活動支援センター



Volunteer Seminar Journal Vol.9

2015 Winter
ボランティアセミナージャーナル

P1	P2	P3	P4
●雄勝ボランティアツアー	●ボランティアツアー・スタディツアーの報告	●学生ボランティアの活動	●オープンキャンパス/ハーバード大学生とツアー/大学祭参加報告



雄勝町で被災した住民の方の、家のあった場所で話をうかがう

石巻市雄勝町での取り組み

松原 久 (文学研究科修士2年)

震災前、人口4,300人の石巻市雄勝町は、最大20メートルの津波が襲い、200名強の死者、8割の家屋が損壊、船がほぼ流出といった被害を受けました。また震災後は、被害の大きさや震災前からの過疎、行政の施策等もあって、多くの被災者が町を離れ、新たな生活環境で暮らしています。復興事業が完了しても、約1,000人しか住まないことから、今後のまちづくりをどう進めていくかも課題です。

このような雄勝町で、私達は3つの活動を行ってきました。まずは、地域を知ること。町に残った方がたは、地域のつながりを生かして復興に向けた取り組みをしてきました。そこで、「スタディツアー」(長期休み)を通して、住民リーダーから地域の取り組みについて学んでいます。次は、一人ひとりに寄りそうこと。雄勝町の方は、町に残っている/残っていない問わず、震災で生活環境が大きく変化しています。そこで、雄勝町内外での「足湯ボランティア」(月1回)を通して、住民の声をうかがっています。最後は、まちづくりを支援すること。雄勝町では、復興事業の遅れ等があってもなお、新たなまちづくり活動が生まれています。そこで、活動への参加を通して、微力ながらお手伝いしています。

雄勝町には課題が多い一方で、魅力にもあふれています。男性には世界を股にかけて漁師といった方も多く、私には想像がつかない体験談などもうかがえます。お母さん達はおしゃべり上手で、私が逆に元気をもらいます。またそのような方が営んできた地域の暮らしも魅力的です。課題も魅力もある雄勝町に、ぜひ皆さんも一度来てみませんか。

スタディツアー・ボランティアツアー報告

東北大学東日本大震災学生ボランティア支援室では、被災地の実情を学ぶ「スタディツアー」や、実際にボランティア活動に参加する「ボランティアツアー」を、岩手県・宮城県・福島県で実施しています。今回はその主なものについてご紹介します。

Tour 1 福島ボランティアツアー

金子 拓 (理学部1年)

9月に3日間、11月に2日間かけて福島にツアーに行ってきました。9月ツアーは、復興商店街・食品検査場の視察、富岡駅の視察などのスタディ要素と仮設での足湯ボランティアというボランティア要素が両方組み込まれたツアー内容でした。また、11月ツアーは、薄磯地区の復興住宅での足湯ボランティアと田村市都路地区で復興応援隊さんのレクチャーのもと、地域の魅力を知るというボランティア要素の強いツアー内容でした。この2つのツアーを通して福島の震災被害と現状を少し学ぶことができたのではないかと思います。

9月には南1丁目仮設住宅の方から帰村宣言や、地域教育に関する話・問題提起をしていただき、サークル内で議論をする機会を与えてもらいました。後につながる良いツアーだったと思います。また、初めて地域復興に関するボランティアに参加し、その地域独自の魅力を知り、その復興について考えることができました。どのボランティアも一度行っただけではわからないことがあると思うので、また訪れたいと思います。



Tour 2 陸前高田ボランティアツアー

小林 大一郎 (工学部2年)



「奇跡の一本松」が有名な陸前高田市の今を知っていますか？東北大学陸前高田市応援サークル「ぼかぼか」では陸前高田市で主に街の見学や、仮設住宅で足湯、手芸、カラオケ、体操を通じて被災された方々との交流をするボランティアツアーを行っています。8月には陸前高田の伝統行事「動く七夕」に参加しました。市内の和野地域の山車を和野の方々と引いて交流しました。9月には災害公営住宅が完成し仮設住宅から引っ越される方がたくさんいました。11月にはこの公営住宅で初めて足湯、手芸活動を行いました。たくさんの方が来てくれて、新しく顔見知りになる方もいました。その反面、仮設とは違いマンションの造りの公営住宅によって以前のように

交流がなく元気のない方もいました。1月には和野の伝統行事「虎舞」に参加しました。獅子舞のような被り物をつけて和野地域の住宅を廻り無病息災を祈願しました。ぜひツアーに一度参加してみませんか？私達はいつでも誰でも大歓迎です！

Tour 3 多大学合同被災地ツアー

秋山 健太 (理学部1年)

9月11日から9月13日の3日間、大学生の夏休みを利用して多大学合同ツアーが行われました。これは東北大学の学生だけでなく、普段はなかなか被災地を訪れることのできない関東の大学に通う学生にもツアーに参加してもらい、被災地の現状を知ってもらうことを主な目的としたスタディツアーです。震災から3年半を迎えたツアー初日は、名取市閑上の津波復興祈念資料館「閑上の記憶」と東松島市の野蒜駅を訪れ、石巻市雄勝町では地域の方に町の現状を教えてくださいました。2日目は福島市のあづま果樹園、郡山市のJA農業倉庫とおだがいさまセンターをまわり、原発の恐怖や風評被害の苦悩を皆で考えました。そして最終日にはガイドの方の案内のもと、川内村や富岡駅周辺を視察し、最後にはいわき市泉玉露仮設住宅でヒアリングを行い、ツアーが終了しました。ややハードなスケジュールでしたが、少し離れた関東の学生とも交流を深めることができ、充実したツアーになりました。



学生ボランティアの活動

東北大学は、学内や学外のボランティア団体と連携をとって活動しています。今回は、その内4つの団体の活動を紹介します。



アスイク

郷田 将

私はアスイクのボランティア活動で、経済的に苦しい家庭に暮らす中学生向けの学習支援を行っています。

週2回の教室でその日にやりたい勉強を子供たちと一緒に考えながら、マイペースに学習を進めてもらっています。また、家庭環境が複雑な子供たちに教室を居心地の良いところと感じてもらえるよう、同年代の子供たちや私たち年上の学生とのおしゃべりの時間も大事にしています。

やりがいを感じる瞬間は、自分の説明を子供たちが理解してくれたとき、そしてその結果がテストの点数となって返ってきたときです。子供たちの「成績があがった！」という言葉は、嬉しさとともに、自分の指導の効果を実感できる素晴らしい機会だと思います。

E-mail: info@asuiku.org TEL: 022-781-5576
URL: <http://asuiku.org>



復興応援団

田ノ岡 大貴 (工学部3年)

復興応援団は地元の方が中心となった東北地域の復興のために活動しています。目指すのは「地域のファン作り」。その地域のことが好きだから何度も足を運び、長期にわたって東北を支えてくれる。そんな人、コミュニティを生み出し、復興とまちづくりに立ち上がる大きな力を起こそうとしています。

主な活動拠点は南三陸町と多賀城市。南三陸町では、漁師が仕掛ける新事業「ブルーツーリズム」を応援するツアーや、複数の復興の担い手と接し深く学ぶツアーの企画をしています。多賀城市では、毎月学生が作成・発行している「復興応援団だより」の配布と地域の方とのコミュニティ作りのお手伝いをしていきます。

E-mail: tanookataiki@gmail.com (学生スタッフ 田ノ岡)
TEL: 0226-25-9897
URL: <http://www.fukkou-ouendan.com/>
Facebook: <https://www.facebook.com/fukkououendan>



ピコせんサポーター

馬場 瞳 (文学部4年)

ピコせんサポーターは、小学生～高校生の子どもを対象に、「こどもがつくるまち『Piccoliせんだい』」というイベントを運営している団体です。今年度も11月1日～3日に、宮城野区文化センターでイベントを開催しました。当日は200人以上の子どもたちが、子どもだけのまちで働き、遊び、他の学校の友達とも仲良くしながら3日間過ごしていました。普段の学校や家庭とはまた違った遊び・学びの場であり、今年度も子どもたちから「楽しかった!」「また来年も参加したい!」との声をもらったことをとても嬉しく思っています。また、仙台市内の大学生や社会人、保護者の方など幅広い層の方々をサポートとしてボランティアで参加してくださいました。

今後は、また来年度の「Piccoliせんだい2015」に向けて企画や準備を進めていきます。

E-mail: piccolisendai@gmail.com URL: <http://picosen.webcrow.jp/>
Facebook: <http://www.facebook.com/piccolisendai>



みちのく博物楽団

條 将太 (理学研究科修士2年)

私たち、「みちのく博物楽団」は、2013年9月に結成された学生主体のミュージアム支援団体です。東北大学総合学術博物館を拠点に、子どもワークショップの企画・運営、理学部自然史標本館の展示支援といった活動を行っています。「先生」や「学芸員」ではなく、「地元のおにいさん、おねえさん」として子どもたちにミュージアムの面白さや学びの楽しさを伝えていくことを目指しています。

これまでは、宮城県内外の博物館の方々と共同でイベントを実施したり、南三陸町などの東日本大震災で被災した沿岸地域で、田んぼの生きもの観察会といった教育普及支援活動を行ったりしてきました。写真はイオンモール石巻において、化石のレプリカ作りのワークショップを実施したときのものです。

TEL: 022-795-6767
E-mail: zircon.turquoise.lapislazuli12@gmail.com (学生代表 條将太)